

Press Release

平成26年9月2日
福祉保健部健康増進課感染症担当
電話 055-223-1494
FAX 055-223-1499

報道関係者各位

デング熱国内感染症例の発生について

デング熱の罹患が疑われる山梨県内の医療機関に入院中の患者について、国立感染症研究所において確認検査を実施したところ、デング熱の患者であることが確認され、医療機関から患者の届出がありました。患者は、直近の海外渡航歴がなく、国内でデング熱に感染したと思われます。

1 患者について

- (1) 年齢等 山梨県在住、10代、女性
- (2) 海外渡航歴 直近の海外渡航歴無し
- (3) 発症、受診 8月23日発症、8月24日県内の医療機関を受診、8月29日入院
- (4) 症状 発熱、倦怠感、筋肉痛 (現在、快方に向かっている)
- (5) 国立感染症研究所で確認検査を実施し、デング熱患者であることが確認された。
- (6) 蚊の刺咬歴 8月中旬、都立代々木公園周辺

2 関連情報

(1) これまでの患者発生状況

9月1日までに、東京都、茨城県、埼玉県、千葉県、神奈川県、新潟県において患者計22名が、都立代々木公園を推定感染地域とする国内感染症例として確認されています。

(2) 推定感染地域

調査の結果、患者が発症前に都立代々木公園周辺で蚊に刺されたこと、これまで確認された患者も都立代々木公園及びその周辺で蚊に刺されたことが確認されていることから、代々木公園でウイルスを保有している蚊に刺されて感染した可能性が疑われます。

デング熱は、ヒトからヒトへの直接の感染ではなく、患者から血を吸った蚊が媒介して、他の人に感染する疾患です。感染すると、発熱、頭痛、筋肉痛や皮膚の発疹等が症状として現れますが、一般に一週間前後で回復すると言われており、予後も比較的良好な感染症ですので過度な心配は必要ありません。

蚊に刺されて発熱等の症状がある場合は、医療機関を受診してください。

3 デング熱患者の県内発生状況

年次	H18年	H19年	H20年	H21年	H22年	H23年	H24年	H25年	H26年
患者数	0	0	1	0	0	1	0	0	※1
渡航歴等			渡航歴あり			渡航歴あり			※本事例

4 デング熱とは、

(1) 概要

- ・ 蚊が媒介するウイルスによる疾患で、アジア、中南米、アフリカ等の世界の広範な地域で流行しています。
- ・ ヒトが感染して発症すると、発熱、頭痛、筋肉痛や皮膚の発疹等が症状として現れますが、感染しても発症しないこともあります。
- ・ 症状は、1週間程度で回復し、予後は比較的良好な感染症です。
- ・ ヒト（患者）— 蚊 — ヒト という経路で蚊を媒介して感染しますので、ヒトからヒトに直接感染することはありません。

(2) 症状

- ・ 突然の発熱、激しい頭痛、関節痛、筋肉痛、発疹等が現れます。
- ・ 潜伏期間（感染してから発症するまでの期間）は2～15日（多くは3～7日）
- ・ まれに重症化して、出血やショック症状を発症するデング出血熱や、デング症候群に移行することがあります。

(3) 治療法

- ・ 特異的な治療法はなく、対症療法が主体となります。
- ・ 現在のところ、有効な抗ウイルス薬はありません。

(4) 予防法

- ・ 国内では、ヒトスジシマカ（主に日中で屋外で吸血する）がデング熱を媒介する可能性があります。
- ・ 蚊との接触を避け、刺されないようにすることが重要です。
- ・ 具体的には、次のことが挙げられます。
 - ① 長袖、長ズボンを着用し、屋外作業での、肌の露出をなるべく避ける。
 - ② 虫よけ剤等を使用し、屋内外で蚊に刺されないようにする。
 - ③ 室内の蚊の駆除を心掛ける。
 - ④ 蚊の幼虫の発生源を作らないように注意する。

（蚊は、水辺に産卵します。下水溝、廃タイヤの中や水桶等の人工的な環境下においても産卵し、増殖します。）

○関連リンク

山梨県福祉保健部健康増進課

<http://www.pref.yamanashi.jp/kenko-zsn/37471134462.html#denguefever>

厚生労働省「デング熱について」

http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/dengue_fever.html